

秘

日本の栄養学界にもフいに リグナンに注目!! 2002.11.15

- ⑤ 大豆研究 先進国では
1969. 退化病とリグナン... バキト博士
- 1982. リグナンとガン研究... ガクワン博士
- 1986. リグナン測定法 ... バンワト博士

サントリー・健康科学研究所(木曾良信所長、大阪府三島郡)は、名古屋大学医学部水谷栄彦教授と共同で女性ホルモンを補う働きをする植物成分「亜麻リグナン」の効能について研究を進めてきたが、亜麻リグナンの摂取によって更年期障害に特有の「ほてり」などの症状を軽減し、閉経後の骨粗しょう症の予防に効果があること動物実験で確認、10月26、27日、鹿児島で開催された日本更年期医学会で発表した。

世界的にみて、日本と北欧は更年期障害に悩む人が少ないと言われている。その一因として日本では大豆を食べていることが指摘されており、その有効成分として大豆イソフラボンが注目を浴びている。一方、北欧では亜麻種子がパンの材料や

亜麻リグナンの効果確認

—サントリー & 名古屋大—

更年期の症状を緩和

亜麻リグナン摂取群、エストロゲン投与群、無投与群の3群(各群11匹)に分けて行い、亜麻リグナン摂取群には亜麻リグナン0.08%含有飲料水を自由に摂取させ、エストロゲン投与群には17βエストラジオール(ヒトと動物に共通の女性ホルモン、ホルモン補充療法に相当)を毎日0.1mg皮下投与し、無投与群は通常の水を飲ませ、それぞれ5週間飼育し、各群の尾部皮膚温度と大腿骨重量を正常マウスと比較した。結果、無投与では尾部の皮膚温度が上昇し、ほてりに相当する症状が見られた。また、大腿骨重量が減少し、閉経後に起こりやすくなる骨粗しょう症の症状が認められた。一方、エストロゲン投与群は皮膚温度の上昇が抑制され、2週間目には有意な効果が認められた。亜麻リグナン摂取群でも同様に皮膚温度の上昇が抑制され、摂取開始3週間目には有意な効果が認められた。またエストロゲン投与群ほど顕著な効果は認められなかったものの、卵巣摘出による大腿骨重量の低下を抑制する経口が見られた。

インフラボンとの比較および併用実験も行われたが、亜麻リグナンとインフラボンとの併用により、それぞれ単独で摂取するより効果が大きいことが示された。